



第 28 号
平成 18 年
3 月 発行

青春

青春と年齢——心で防ぐ老化——

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 混

「老化」は誰にでも訪れますが、その程度は人によって違います。長生きと精神的・社会的状態に深く関連している要因は、

- 一、仕事に満足している。
- 二、人生に明るく積極的に取り組んでいる。
- 三、身体的に健康である。

等々でしょう。一般に長生きを考えると、どうしても身体の面ばかりに気を取られがちですが、心の充実がなによりも大切と考えられます。

とは言っても、筆者も年齢はすでに還暦を過ぎています。しかし、医療・保健・福祉活動の中で、職員と共に飛び回っているせい、年齢より幾分若く見られているのかなと自負しています？

かつて幻の詩人と言われたサムエル・ウルマンは、その詩『青春』の中で、「青春とは怯懦を退ける勇氣、安易を振り捨て、冒険心を意味する。歳を重ねただけで人は老いない。理想や情熱を失うときに、青春は消え、初めて老いる」と語っています。

年齢を忘れ、自分達がいま従事している仕事の役割を再認識し、充実した人生を送るため、青春の志を持ち続けたいものです。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いくる。歲月は皮膚のしわを増すが情熱を失う時に精神はしぼむ。苦悶や狐疑や不安、恐怖失望、こう言うものを恰も長年月の如く人を老いさせ精氣ある魂も芥に帰せしめてしまう。

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる
人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる
希望ある限り若く 失望と共に老いる
大地より神より人より美と喜悦勇氣と壯大偉大との靈感を受ける限り人の若きは失われぬ。
これらの靈感が絶え悲歎の白雪が人の心の奥までも蔽いつくし皮肉の厚氷がこれを固くとぎすに至ればこの時にこそ人は全く老いて神の隣をこる他はなくなる。

マツカーサーの座右の銘
訳 松永安左衛門
須田 混

いわき市久之浜町 須田 充 氏書

「豆まき」節分の日

二月三日（金）午後二時より、恒例の豆まきを実施致しました。
 年男・年女の入居者様が、袴姿で各居室をまわり、赤鬼・青鬼・黄鬼？・緑鬼？
 に向かって元氣良く「福は内・鬼は外」と豆まきをして頂きました。
 今年も一年無病息災でありますように、入居者様それぞれ歳の数だけ？（そん
 なに多くは無理かな）・・・豆を美味しく味わって頂きました。神棚にも豆を奉納
 し、春の雷様が来たらまた皆様で頂きましょうね。



「二月の誕生会」全ユニット合同

二月五日（日）毎月恒例の誕生会を実施致しました。
 二月に誕生日を迎えられた入居者様は八名（八三歳～九三歳）全員にプレゼント
 が贈られお祝いしました。その後、職員による「シンデレラ姫」の喜劇・歌・ゲー
 ムなどの余興を楽しみました。おやつとジュースも配られ、皆様終始笑顔で過
 ごされました。
 「誕生会」は、毎月第一日曜日に実施していますので、お時間があればご家族さ
 まのご参加を心よりお待ちしております。

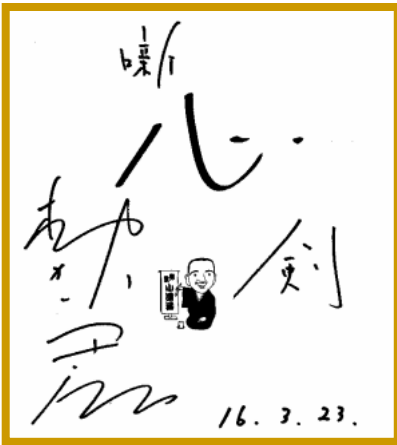
「いわき寄席」出演者の色紙集から⑦

「いわき寄席」出演者の直筆の色紙を紹介致します。

柳家 小団治師匠の作品です。

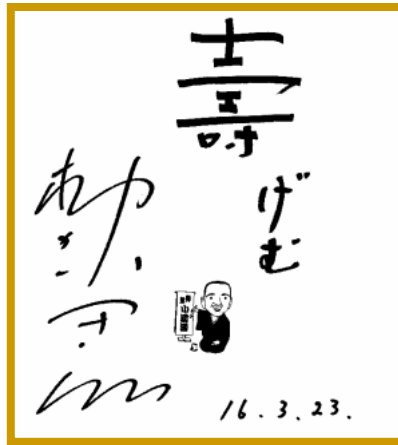
○第八五回記念いわき寄席 平成十六年三月二三日

(演目) 茶の湯、寿限無、崇徳院



柳家 小団治師匠
(第 85 回いわき寄席 H16.3.23)

新 心 剣



柳家 小団治師匠
(第 85 回いわき寄席 H16.3.23)

壽 げ む



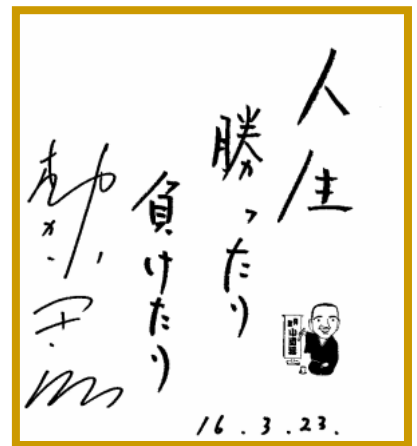
柳家 小団治師匠
(第 85 回いわき寄席 H16.3.23)

笑 門 来 福



柳家 小団治師匠
(第 85 回いわき寄席 H16.3.23)

寿 限 無



柳家 小団治師匠
(第 85 回いわき寄席 H16.3.23)

人 生
勝 っ た り
負 け た り

「ハーモニカ演奏会」

十二月にも来て頂きました「キャプテン船水」様が再度二月三日に来荘、「ハーモニカの演奏会」をご披露戴きました。ナツメロが中心で、入居者様も手拍子されたり、音楽に合わせて足踏みする方も居られました。今後は毎月第四木曜日に来て下さるとう事です。ご家族の皆様も一度お聞きください。

また「キャプテン船水」様のホームページ(左記のホームページアドレス)がありますのでご覧下さい。

http://www.geocities.jp/harmonica_iwaki/



介護老人福祉施設 『望洋荘』
職員紹介 & コメント集



介護士 市井 ゆかり

初めまして、市井ゆかりと申します。私は今年専門学校を卒業して4月より望洋荘で働く事になりました。専門学校では、二年間介護の勉強をして来ました。在学中は仙台市内のいろいろな施設で多くの実習を行ってきました。実習では最初の頃、仙台の方言が良く分らず、利用者様との会話で時々、今の言葉ってどういう意味なのかな?と戸惑う事がありました。また、宮城の民謡も全然知らない為に、利用者様と歌を唄う時は本当に苦勞しました。今でも伴奏があれば多少は唄えますが、伴奏なしではかなり微妙?多分無理だと思えます。しかし、今ではその頃の利用者様との会話とか、一緒に歌を唄っている時の事や、その時出合ったたくさんの方の利用者様ひとりひとりの顔が目に残ります。

実習の中で一番印象に残っている事は、最後の実習の時です。望洋荘と同じユニットケアでユニットに八名の利用者様が生活して居りました。私が実習したユニットは重度の認知症の方が多く、最初は本当にどの様に接して行けば良いのか解らずに、すごく悩んでも辛い思いをしました。毎日が試行錯誤

で、利用者様に私の意思が通じた時には本当に嬉しかったのです。その時の利用者様でいつも寂しそうな表情で「家に帰る」とホール内を徘徊していた方が居りました。しかし実習が終了する三日前の日に、その利用者様と一緒にボール遊びをしていた時ですが、今までには見たことないとても穏やかな、優しい表情で笑っていた様子が今でも鮮明に記憶に残っています。望洋荘でもこれまでの経験を活かして、利用者様ひとりひとりの内に秘めている笑顔を引き出して、一緒に楽しい毎日を過ごせる様な介護を行って行きたいと思っています。

まだまだ分からない事がたくさんありますが、焦らずに自分のペースでじっくりと覚えて行きたいと思っています。そして、笑顔を忘れずに明るく元気に働いて生きたいと思っています。これからもよろしくお願い致します。



介護士 猪狩 雅人

四月より望洋荘で働くことになりました。望洋荘では昨年の夏に一ヶ月間実習させて頂きました。その時は、戸惑う事も多く不安でいっぱいでした。しかし入居者様の笑顔と「ありがとう」のことに支えられて、少しずつですが何事にも自信をもてるようになりました。

これからは望洋荘の職員として、入居者様がそれ

ぞれ自分らしく、毎日を笑顔で生活できるように明るく楽しい環境づくりに努めて行きたいと思っています。また、入居者様の立場にたって、入居者様のニーズにあった行動をとって行く事を大切に行きたいと思っています。その為にも、様々な知識と技術を学び、質の高い介護が出来るように一生懸命頑張ります。

まだまだ未熟者で、皆様にはご迷惑をお掛けする事もあると思いますが、思いやりと笑顔を忘れずに努力していきまので、よろしくお願い致します。

今月の言葉その (倫理研究所編纂語集から)

いつまで生きるかより、
どう生きるか

人の生命の価値は命の時間の長短では測れない。むしろその質をこそ問うべきだろう。私にできることは何かをわが胸に問い、志高く、一日・一月・一年を心豊かに生きたい。

編集後記

『望洋荘』便り

平成十八年三月一日発行

発行所 いわき市

社会福祉法人 平豊間字合磯三十九番地
りんさく福祉会

介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373

FAX (0246) 55-7255